

書道部 善光寺門前で公開実演

千西一遇

第94号
発行
令和4年
5月26日(木)
上田西高 校
新聞委員 局
編集
編集局長:藤田珠寿
新聞委員長:辺見咲良

5月5日(木)御開帳が開かれる善光寺の門前で「ながの高校生書道パフォーマンス」が長野市の中央通りで開かれた。前回の御開帳以来の開催で、市内外の11校の書道部員がパフォーマンスを披露した。中央通りは歩行者天国となり、当日はたくさんの見物客が幅6メートル高さ4メートルほどの紙の周りを囲んだ。



善光寺門前で行われた書道部による書道パフォーマンスの様子 写真撮影=辺見咲良

初めての書道パフォーマンス

前回の御開帳(2015年)に合わせて開催されたのに続き、善光寺御開帳(2022年)に合わせて5月5日(木)に「ながの高校生書道パフォーマンス」が善光寺前中央通りで開催され、本校の書道部が書道パフォーマンスを披露した。書道部はコロナ禍で次々と発表の場を失っており、今回のパフォーマンスが一般の観客に披露する初めての機会となった。

初めての公開実演に部長の小澤紗也華さんは「中学の時から憧れていた。やっと自分の憧れていた舞台に立てるという嬉しい気持ちはあったが緊張や不安もあった」

書道部顧問の白井道彦先生は「パフォーマンスをやりたくて入った子が多かったため、少しでも多くパフォーマンスの場」



書道パフォーマンスの看板 写真撮影=辺見咲良

他校の優れた取り組みを真似ぶ

書道パフォーマンスを恵がえられただろう」と話してくれた。

白井先生は「ここで言えることは、甲子園に行きたかったら甲子園に行く高校の真似を。英語検定2級を取りたいならば2級取った人がどんな勉強をしたかその真似をすることが一番。よくわからなくても賢きに学べ。賢いものを学ぶというのは真似ぶということから始まる」と話してくれた。色々なことにチャレンジする事はハードルが高いが、先人を真似び、学んで行くことが最適解かもしれない。



松本蟻ヶ崎高校の実演の様子 写真撮影=辺見咲良

ダンスや絵なども取り入れ信州の魅力を表現



筆を走らせる書道部 写真撮影=辺見咲良

書道パフォーマンスで工夫した点を聞くと、小澤部長は「絵と言葉」だと話す。「絵は3年1組三井志歩さんの案で、信州の美しい山々と綺麗な青空、桜が舞い散る様子を描いてもらった。また、綺麗な花びらを再現するために筆やローラーを使って絵を描くのではなく、生花用スポンジの「オアシス」を使い、1年生に

パフォーマンスの中で表現してもらった」と話す。言葉は、部員と相談しながら信州の良いところなどを入れた。「中央の『柳緑花紅』は柳は緑色、花は紅色。美しい自然のまま、自然に手を加えていない。などの意味があるため信州にぴったりだなあ」と思い、とり入れたそう。

また、ダンスのパフォーマンスについても話を聞くと、「ダンスが苦手な部員も多く、最初はみんな乗り気ではなかったが、4回程ダンススクールに行くとダンスを教えて頂き、一生懸命練習をして4回で形にすることができた。みんながだんだん踊れるようになってきて、笑顔が増えダンスを楽しんでいる様子だった」と話してくれた。さらに、「ダンスをパフォーマンスに取り入れたことによって、みんなが同じダンスを踊ることで絆が深まったと感じる。ダンススクールの先生には感謝し切れないです」と話してくれた。

(藤田珠寿)